

第8回 道の駅よこはまエリア事業推進協議会 議事要旨

開催日時：令和元年10月4日（金）13：30～15：00

開催場所：横浜町ふれあいセンター 大集会室

【令和元年度の取組状況と各施策の現状と課題についての報告】

●産業振興「観光企画の強化」について

- ・「観光ルート、観光企画の提案」として函館アフターデスティネーションキャンペーンの実施、上十三・十和田湖広域定住自立圏観光推進協議会のパンフレットを作成・配布、また、しもきたTABIあしすとの下北半島旅ガイド「ぐるりんしもきた」による観光情報提供とバスツアーを実施。
- ・「受け入れ態勢の充実」として、昨年度整備した電子看板を活用したPR活動の実施、多言語に対応した小型翻訳機4台を導入予定。
- ・「レストランの魅力アップ」として、12月に横浜なまこフェア、3月にホタテフェアを開催予定。またレストランメニューの検討を行い、ピザ用オーブンを導入し、毎週日曜日限定でピザを提供。
- ・菜の花開花シーズン以外の観光誘客が課題。
- ・現在の施策達成度は80%と考えている。

●産業振興「買い物や休憩、憩いで賑わう空間づくり」について

- ・「来訪者が休憩できる空間づくり」として、道の駅エントランスに花のプランターを設置。
- ・「イベントや催事などの企画の充実」として、道の駅にて加工団体が交代で毎月イベントを開催、青森県内道の駅フェア&菜の花プラザ20周年祭を開催、道の駅ふたつ（秋田県）との商品交流、イベントテント等購入を実施。
- ・三保野公園へ繋がる木製階段が老朽化しており修繕が必要である。
- ・現在の施策達成度は80%と考えている。

●産業振興「特産品による商品開発・ブランド化」について

- ・「魅力ある商品開発」として、商品ラベルプリンターを活用したラベルデザインの向上、既存商品のブラッシュアップを実施。
- ・「PRや売り場の工夫・改善」として、インターンの大学生による特産物の加工品に関するガイドブックを活用。
- ・商品加工グループの担い手・後継者不足、県内外の外部販売の計画・対策不足が課題。
- ・現在の施策達成度は80%と考えている。

●産業振興「直売所の充実（地産地消）」について

- ・「集荷サービスの提供」として、道の駅職員がぐるっと隊として、道の駅営業日全日にてサービスを提供。
- ・「売り場の工夫・改善」として、野菜の種類ごとの陳列及び清潔な売り場づくり、道の駅に来る環境づくりとして絵画の展示、高齢者や女性に優しい野菜販売台 13 台の導入を予定。
- ・「冬場の品薄時の売り場づくり」として、県内産地直売施設間の商品交流検討会を実施、冬期の不足野菜の仕入れの検討会を実施。
- ・集荷サービスの手数料徴収をするか否かの検討が課題。
- ・現在の施策達成度は 90%と考えている。

（意見、質問等）

○ピザの販売状況はいかがか。

⇒1 日で 30～40 食の実績となっている。

○インバウンド対応として、道の駅の電子看板等に英語、中国語、韓国語等の外国語表記を取り入れてはどうか。

⇒道の駅事務局と相談し検討していきたい。

●地域福祉「高齢者など住民への宅配サービス」について

- ・宅配サービスの提供として、道の駅にある商品をカタログ掲載して宅配で販売、温泉や役場ロビーで移動販売を実施、道の駅で購入した重い荷物を自宅まで配達、高齢利用者の利用状況を把握し見守りを実施、高齢者が集まる場での移動販売の実施、町内のクリニックや歯科、薬局等にチラシを置いて周知の拡大。
- ・人数が多い農水産業作業時へのこびり（おやつ）の宅配定着が課題。
- ・現在の施策達成度は 80%と考えている。

●地域福祉「道の駅への送迎サービス」について

- ・送迎サービスの提供として、温泉&お買い物バスの運行を実施。また今年度完成予定の保健・児童センターへのバス送迎計画の検討。
- ・温泉バスの利用者は 10 人から 20 人くらいだが、道の駅利用者は昨年同様 0 人から 5 人程度と少人数であるため、今後は利用者である高齢者等への意見調査実施が必要。
- ・課題として、バス本数や時間に余裕を確保したいが運転手が足りない。また、現在の利用状況から道の駅ルートの必要性についても再度検討し判断する必要がある。
- ・現在の施策達成度は 60%と考えている。

（意見、質問等）

○送迎サービスについて、高齢化社会で免許返納者も多くなっているため、もっと必要になると思う。運転手等の問題もあるが継続して行って欲しい。

○集荷と宅配サービスは同じ人、同じ車両で実施しているのか。集荷のついでに宅配を行っているのではなく別々に経費をかけて実施しているのか。

⇒集荷は朝、宅配は電話注文があれば随時対応している。同時に行うのは少し難しい。

⇒集荷・宅配サービスについて、効率化な配車の仕方など、AIを用いたアプリの作成も可能である。

●防災「災害時の受け入れ体制づくり」について

・今年度は、駐車場拡幅等に伴う一部造成工事に着手し、防災除雪ステーションや防災備蓄倉庫等の建築工事に今年度末から着手する予定。併せて休憩施設やトイレの詳細設計を実施中。

・今年度末時点での事業進捗率は約54%。

●防災「防災訓練やPR活動を通じた防災意識の醸成」について

・防災に関する意識啓発として、横浜町総合防災訓練を9月22日に実施。役場庁舎にて初動訓練、本町地区（横浜町役場）で町民参加型訓練を実施。また、道の駅よこはま防災訓練も年2回実施。

・課題としていた消費期限が近い備蓄食料の有効活用について、消費期限が近いお菓子は町内の保育所及び幼稚園に無償配布を行った。

・現在の施策達成度は70%と考えている。

（意見、質問等）

○休憩施設は常時開設しているのか。

⇒24時間利用可能とするか、夜間は閉鎖とするかは、これから町と協議を進めながら検討していく。

【全体を通しての意見等】

・各施策が全住民に知れ渡っていない感じがあるため、体験会を実施し参加してもらう機会を設けることで周知が図られ、利用状況も上がってくるのではないかと。

・レストランでのピザ提供について、大会等への参加など計画的・戦略的にアピールを進めて欲しい。

・送迎サービスについて、高齢化で免許返納者も多くなってきているため、外部資金の調達等も検討し、公共サービスとして維持して欲しい。

・集荷・宅配サービスは積極的に高齢者へ情報提供を行い、利用者を増やす必要がある。

・防災倉庫の備蓄品に町の産物を用いた保存食が使用できないか検討して欲しい。

・防災用の機器・機材が、いざという時に使えない事例もあるため、普段からイベント等で活用していけばよい。

以上